

高等学校 令和4年度（1学年用） 教科 農業 科目 農業と環境

教科： 農業 科目： 農業と環境 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組 組 組 組

使用教科書： （ 実教出版「農業と環境 新訂版」 ）

教科 農業 の目標： 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して農業の各分野で活かし、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質、能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 農業と環境 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
農業と環境の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業と環境に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業と環境について、基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
①農業と環境を学ぶ 【知】農業と環境の学び方について理解しているとともに、関連する技術を身に付けられるようにする。 【態】農業と環境の学び方について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組ませる。	・農業や環境は人間生活の影響を受け、相互に影響しあう関係にある事を理解させる。 ・農業の学び方に興味関心を持ち、実践する意欲と態度を身に付けさせる。 ・学校農業クラブ活動の目標や組織、活動内容を理解させ、取り組む意欲と態度を身に付けさせる。	【知】農業と環境の学び方、および学校農業クラブについて理解しているとともに、関連する技術を身につけているか。 【態】農業と環境の学び方、および学校農業クラブ活動について、主体的、協働的に取り組んでいるか。	○		○	12
②栽培と飼育の基礎 【知】作物や家畜の特性や生育環境、管理に関する技術を身に付けられるようにする。 【思】作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的、科学的に考察し、想定される管理上の課題を整理し創造的に解決させる。 【態】作物や家畜に興味関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的、かつ協働的に取り組ませる。	・作物や家畜の特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について科学的にとらえ、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付けさせる。 ・作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的、科学的に考察し、課題を整理し解決に向けた具体的なT取り組みを考え、レポート等で表現できるようにする。 ・作物や家畜の特性や生育環境、管理に関する基礎的な知識を身に付けさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。	【知】作物や家畜の特性や生育環境、管理に関する技術を身に付けているか。 【思】作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的、科学的に考察し、想定される管理上の課題を整理し創造的に解決できるか。 【態】作物や家畜に興味関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的、かつ協働的に取り組んでいるか。	○	○	○	20

高等学校 令和4年度（1学年用） 教科 農業 科目 農業と情報

教科：農業 科目：農業と情報 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 A組

使用教科書：（農業と情報【実教出版】）

教科 農業 の目標：

【知識及び技能】農業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

科目 農業と情報 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
農業に関する情報について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付ける。	農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付ける。	農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	私たちの生活と農業の情報化 【知識及び技能】 情報の特徴と性質を理解するとともに、メディアリテラシーを身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 情報化社会の課題を発見し、モラルを守る心構えを身に付けること。 【学びに向かう力、人間性等】 農業の情報化に必要な技術の収集について自ら学び主体的かつ協働的に取り組むこと。	・指導事項 ①情報化社会における私たちの生活 ②情報とメディア ③情報化とモラル ④農業を支える情報 単元テスト ・教材：教科書	【知識・技能】 情報の特徴と性質を理解し、メディアリテラシーを身に付けている。 【思考・判断・表現】 情報化社会の課題を発見し、モラルを守る心構えを身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 農業の情報化に必要な技術の収集について自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	社会を支えるコンピュータ 【知識及び技能】 コンピュータの概要を理解するとともに情報社会の脅威と情報管理の重要性を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 インターネット検索の課題を発見し、データや情報の種類とその表現方法を身に付けること。 【学びに向かう力、人間性等】 情報通信ネットワークの仕組みと特徴について自ら学び主体的かつ協働的に取り組むこと。	・指導事項 ①コンピュータの仕組み ②データや情報の表現 ③情報通信ネットワーク ④インターネットの仕組み ⑤情報セキュリティ 単元テスト ・教材：教科書	【知識・技能】 コンピュータの概要を理解し、情報社会の脅威と情報管理の重要性を身に付けている。 【思考・判断・表現】 インターネット検索の課題を発見し、データや情報の種類とその表現方法を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報通信ネットワークの仕組みと特徴について自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	コミュニケーションと情報デザイン 【知識及び技能】 各種ソフトウェアの特徴と機能を理解するとともに、基本操作と利用方法を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 正確な情報収集についての課題を発見し、記録の重要性とその表現方法を身に付けること。 【学びに向かう力、人間性等】 情報を活用するソフトウェアの機能や操作について自ら学び主体的かつ協働的に取り組むこと。	・指導事項 ①情報表現のためのソフトウェア ②文書の作成と表現 単元実技テスト ・教材：教科書・副教材 パソコン室端末	【知識・技能】 各種ソフトウェアの特徴と機能を理解するとともに、基本操作と利用方法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 正確な情報収集についての課題を発見し、記録の重要性とその表現方法を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報を活用するソフトウェアの機能や操作について自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
2 ...	コミュニケーションと情報デザイン 【知識及び技能】 各種ソフトウェアの特徴と機能を理解するとともに、基本操作と利用方法を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 正確な情報収集についての課題を発見し、記録の重要性とその表現方法を身に付けること。 【学びに向かう力、人間性等】 情報を活用するソフトウェアの機能や操作について自ら学び主体的かつ協働的に取り組むこと。	・指導事項 ③データの集計と視覚化 ④プレゼンテーション ⑤問題解決の方法 単元実技テスト ・教材：教科書・副教材 パソコン室端末	【知識・技能】 各種ソフトウェアの特徴と機能を理解するとともに、基本操作と利用方法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 正確な情報収集についての課題を発見し、記録の重要性とその表現方法を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報を活用するソフトウェアの機能や操作について自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	20

学期	<p>スマート農業への展望</p> <p>【知識及び技能】 A I やロボットの農業への利用や可能性を考え、スマート農業の仕組みを理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 データの重要性や農業情報システムの役割を理解するとともに、本校気象センサの活用方法を身に付けること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 人工知能の概要や農業における利用について自ら学び主体的かつ協働的に取り組むこと。</p>	<p>・指導事項 ①スマート農業の目指す将来 ②計測と制御 ③リモートセンシングとGIS ④人工知能 単元テスト ・教材：教科書・パソコン室端末</p>	<p>【知識・技能】 A I やロボットの農業への利用や可能性を考え、スマート農業の仕組みを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 データの重要性や農業情報システムの役割を理解するとともに、本校気象センサの活用方法を身に付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 人工知能の概要や農業における利用について自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	10
3 学期	<p>農業学習と情報活用</p> <p>【知識及び技能】 農業学習の特徴について理解するとともに、プロジェクトの発表過程で情報活用能力を身に付けること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 プロジェクト学習の課題を発見し科学的根拠に基づいて創造的に解決すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 プロジェクト学習の進め方を理解し自ら学び主体的かつ協働的に取り組むこと。</p>	<p>・指導事項 ①農業学習とプロジェクト学習 ②プロジェクト発表 ・教材：教科書・パソコン室端末</p>	<p>【知識・技能】 農業学習の特徴について理解するとともに、プロジェクトの発表過程で情報活用能力を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 プロジェクト学習の課題を発見し科学的根拠に基づいて創造的に解決している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 プロジェクト学習の進め方を理解し自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	<p>12</p> <hr/> <p>合計</p> <hr/> <p>70</p>

高等学校 令和4年度（1学年用） 教科 農業 科目 総合実習

教科：農業 科目：総合実習 単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 A組 組 組 組

使用教科書：（畜産（実教出版）、動物看護学（緑書房））

教科 農業 の目標：

【知識及び技能】農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 総合実習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身につくように自ら学んでいる。農業の振興や社会貢献に主体的に取り組む態度を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
動物管理（イヌ、ニワトリ） 動物各論（モルモット） 圃場整備（樹木の剪定①） 【知識及び技能】 飼育動物や植物について理解するとともに、管理技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 飼育動物や植物に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 飼育動物や植物に関する情報や技術の収集について自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	動物管理（イヌ、ニワトリ） 動物各論（モルモット） 圃場整備（樹木の剪定①） 【指導事項】 ・動物の管理方法について実践的に身に付けさせる。 ・動物の生態や環境について理解させる。 【教材】 ・教科書等	動物管理（イヌ、ニワトリ） 動物各論（モルモット） 圃場整備（樹木の剪定①） 【知識・技能】 ①実習場面において適切な道具・資材を選定し、安全面と衛生面に留意して使用することができる。道具・資材の扱い方を説明できる。 ②それぞれの動物や植物に適した管理方法を実践し、その内容を説明することができる。 ③動物や植物の特性や習性について理解し、その内容を説明することができる。 ④レポートに実習内容を分かりやすく記述している。 【思考・判断・表現】 ①動物の飼育環境や植物の生育環境を理解し、それぞれに適した環境をつくり、臨機応変に管理することができる。 ②動物の生態や動物の行動を理解し、異常を発見して対応することができる。 ③飼育動物や校内の植物に関して、調査や情報収集を行い、その結果をもとに考察し、自分の考えを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①動物や植物に関心をもち、主体的かつ協動的に実習に参加している。 ②動物の生態やそれらを取り巻く環境に興味関心をもち、積極的に情報を集め、レポートに記述している。	○	○	○	16
動物管理（ネズミ類、ウサギ、モルモット） 動物各論（フェレット） 圃場整備（除草について） 【知識及び技能】 飼育動物や植物について理解するとともに、管理技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 飼育動物や植物に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 飼育動物や植物に関する情報や技術の収集について自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。	動物管理（ネズミ類、ウサギ、モルモット） 動物各論（フェレット） 圃場整備（除草について） 【指導事項】 ・動物の管理方法について実践的に身に付けさせる。 ・動物の生態や環境について理解させる。 【教材】 ・教科書等	動物管理（ネズミ類、ウサギ、モルモット） 動物各論（フェレット） 圃場整備（除草について） 【知識・技能】 ①実習場面において適切な道具・資材を選定し、安全面と衛生面に留意して使用することができる。道具・資材の扱い方を説明できる。 ②それぞれの動物や植物に適した管理方法を実践し、その内容を説明することができる。 ③動物や植物の特性や習性について理解し、その内容を説明することができる。 ④レポートに実習内容を分かりやすく記述している。 【思考・判断・表現】 ①動物の飼育環境や植物の生育環境を理解し、それぞれに適した環境をつくり、臨機応変に管理することができる。 ②動物の生態や動物の行動を理解し、異常を発見して対応することができる。 ③飼育動物や校内の植物に関して、調査や情報収集を行い、その結果をもとに考察し、自分の考えを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①動物や植物に関心をもち、主体的かつ協動的に実習に参加している。 ②動物の生態やそれらを取り巻く環境に興味関心をもち、積極的に情報を集め、レポートに記述している。	○	○	○	16

<p>動物管理 (チンチラ、デグー、小鳥等) 動物各論 (ハムスター) 園場整備 (樹木の剪定②)</p> <p>【知識及び技能】 飼育動物や植物について理解するとともに、管理技術を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 飼育動物や植物に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 飼育動物や植物に関する情報や技術の収集について自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>	<p>動物管理 (チンチラ、デグー、小鳥等) 動物各論 (ハムスター) 園場整備 (樹木の剪定②)</p> <p>【指導事項】 ・ 動植物の管理方法について実践的に身に付けさせる。 ・ 動植物の生態や環境について理解させる。</p> <p>【教材】 ・ 教科書等</p>	<p>動物管理 (チンチラ、デグー、小鳥等) 動物各論 (ハムスター) 園場整備 (樹木の剪定②)</p> <p>【知識・技能】 ①実習場面において適切な道具・資材を選定し、安全面と衛生面に留意して使用することができる。道具・資材の扱い方を説明できる。 ②それぞれの動物や植物に適した管理方法を実践し、その内容を説明することができる。 ③動物や植物の特性や習性について理解し、その内容を説明することができる。 ④レポートに実習内容を分かりやすく記述している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ①動物の飼育環境や植物の生育環境を理解し、それぞれに適した環境をつくり、臨機応変に管理することができる。 ②動植物の生態や動物の行動を理解し、異常を発見して対応することができる。 ③飼育動物や校内の植物に関して、調査や情報収集を行い、その結果をもとに考察し、自分の考えを表現することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ①動物や植物に関心を持ち、主体的かつ協働的に実習に参加している。 ②動植物の生態やそれらを取り巻く環境に興味関心を持ち、積極的に情報を集め、レポートに記述している。</p>	○	○	○	16
<p>2 学 期</p> <p>動物管理 (ハ虫類、サル) 動物各論 (ウサギ) 園場整備 (刈払い機使用法)</p> <p>【知識及び技能】 飼育動物や植物について理解するとともに、管理技術を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 飼育動物や植物に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 飼育動物や植物に関する情報や技術の収集について自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>	<p>動物管理 (ハ虫類、サル) 動物各論 (ウサギ) 園場整備 (刈払い機使用法)</p> <p>【指導事項】 ・ 動植物の管理方法について実践的に身に付けさせる。 ・ 動植物の生態や環境について理解させる。</p> <p>【教材】 ・ 教科書等</p>	<p>動物管理 (ハ虫類、サル) 動物各論 (ウサギ) 園場整備 (刈払い機使用法)</p> <p>【知識・技能】 ①実習場面において適切な道具・資材を選定し、安全面と衛生面に留意して使用することができる。道具・資材の扱い方を説明できる。 ②それぞれの動物や植物に適した管理方法を実践し、その内容を説明することができる。 ③動物や植物の特性や習性について理解し、その内容を説明することができる。 ④レポートに実習内容を分かりやすく記述している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ①動物の飼育環境や植物の生育環境を理解し、それぞれに適した環境をつくり、臨機応変に管理することができる。 ②動植物の生態や動物の行動を理解し、異常を発見して対応することができる。 ③飼育動物や校内の植物に関して、調査や情報収集を行い、その結果をもとに考察し、自分の考えを表現することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ①動物や植物に関心を持ち、主体的かつ協働的に実習に参加している。 ②動植物の生態やそれらを取り巻く環境に興味関心を持ち、積極的に情報を集め、レポートに記述している。</p>	○	○	○	16

高等学校 令和4年度（1学年用） 教科 農業 科目 飼育と環境

教科：農業 科目：飼育と環境 単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 A組 組 組 組

使用教科書：（畜産（実教））

教科 農業 の目標：

【知識及び技能】農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業の復興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

科目 飼育と環境 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
飼育と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	飼育と環境に対する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	飼育と環境について農業生物の飼育や管理に応用できるように自ら学び、農業の復興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>単元「動物の飼育管理」</p> <p>【知識及び技能】 様々な環境要因が動物に与える影響と各動物にあった飼育管理方法を理解するとともに、適切な飼育管理技術を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 動物飼育に対する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 動物飼育の情報や技術の収集について自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>	<p>【指導項目】</p> <p>①講義：動物飼育の心構え、日常の飼育管理と点検 実習：動物の飼育管理（豚、ブタ）気候因子について（温度・湿度・風速）</p> <p>②講義：日常の飼育管理の留意点 実習：動物の飼育管理（フェレット、モモンガ）気候因子について（温度・湿度・風速）</p> <p>③講義：健康状態の把握 実習：動物の飼育管理（ハムスター、マウス）気候因子について（温度・湿度・風速）</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>①各動物に適した飼育管理方法を行い、その内容を説明できる。（観察・レポート）</p> <p>②実習場面において適切な道具・資材を選定し、使用することができる。（観察・レポート）</p> <p>③動物の特性や習性について理解し、生物分類や動物種について説明できる。（単元テスト）</p> <p>④レポートに実習内容を分かりやすく記述している。（レポート）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①各動物の飼育環境を理解し、適切な飼育環境にすることができている。（観察・レポート）</p> <p>②各動物の生態や行動を理解し、体調不良等の健康観察ができている。（観察・レポート）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>①各動物及びその管理に関心をもち、積極的に実習に参加している。（観察）</p> <p>②各動物及びその管理に関心をもち、積極的に情報を集め、レポートに記述している。（レポート）</p>	○	○	○	12
1学						

期	<p>単元「動物の栄養と飼料」</p> <p>【知識及び技能】 動物の栄養と飼料について理解するとともに、各作物にあった適切な栽培管理技術を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 動物の栄養と飼料に対する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 動物の栄養と飼料に対する情報や技術の収集について自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>	<p>【指導項目】</p> <p>①講義：動物の飼料について 実習：作物の栽培・管理</p> <p>②講義：栄養素について 実習：作物の栽培・管理</p> <p>③講義：動物の食性・採食パターンについて 実習：作物の栽培・管理</p> <p>④講義：ペットフードについて 実習：作物の栽培・管理</p> <p>⑤講義：エネルギーについて 実習：作物の栽培・管理</p> <p>⑥講義：各ライフステージにおける栄養について 実習：作物の栽培・管理</p> <p>⑦講義：嗜好性について 実習：作物の栽培・管理</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>①各作物に適した栽培管理方法を行うことができる。（観察・レポート）</p> <p>②実習場面において適切な道具・資材を選定し、使用することができる。道具・資材の扱い方を説明できる。（観察・レポート）</p> <p>③動物の栄養と飼料を理解し、飼料の分類・栄養素について説明することができる。（単元テスト）</p> <p>④レポートに実習内容を分かりやすく記述している。（レポート）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①動物の栄養と飼料を理解するとともに、動物の栄養と飼料の関係性を考察し、自分の考えを表現することができる（観察・レポート）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>①動物の栄養と飼料に関心を持ち、積極的に実習に参加している。（観察）</p> <p>②動物の栄養と飼料に関心を持ち、積極的に情報を集め、レポートに記述している。（レポート）</p>	○	○	○	20
2 学 期	<p>単元「動物の飼育管理」</p> <p>【知識及び技能】 様々な環境要因が動物に与える影響と各動物にあった飼育管理方法を理解するとともに、適切な飼育管理技術を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 動物飼育に対する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 動物飼育の情報や技術の収集について自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>	<p>【指導項目】</p> <p>③講義：健康状態の把握 実習：動物の飼育管理（ハムスター、マウス） 気候因子について（温度・湿度・風速）</p> <p>④講義：栄養と飼料 実習：動物の飼育管理（ワトリ、ウサギ） 物理・科学的因子について（換気・臭気・照明・音） 住居因子について（ケージ環境）</p> <p>⑤講義：動物性飼料 実習：動物の飼育管理（ヨウモリ、イソ） 物理・科学的因子について（換気・臭気・照明・音） 住居因子について（ケージ環境）</p> <p>⑥講義：植物性飼料 実習：動物の飼育管理（ウサギ、豚） 物理・科学的因子について（換気・臭気・照明・音） 住居因子について（ケージ環境）</p> <p>⑦講義：動物に適する飼育器材 実習：動物の管理方法（ウサギ、モルモット） 生物因子について（同種動物、異種動物）</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>①各動物に適した飼育管理方法を行い、その内容を説明できる。（観察・レポート）</p> <p>②実習場面において適切な道具・資材を選定し、使用することができる。（観察・レポート）</p> <p>③動物の特性や習性について理解し、生物分類や動物種について説明できる。（単元テスト）</p> <p>④レポートに実習内容を分かりやすく記述している。（レポート）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①各動物の飼育環境を理解し、適切な飼育環境にすることができている。（観察・レポート）</p> <p>②各動物の生態や行動を理解し、体調不良等の健康観察ができています。（観察・レポート）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>①各動物及びその管理に関心を持ち、積極的に実習に参加している。（観察）</p> <p>②各動物及びその管理に関心を持ち、積極的に情報を集め、レポートに記述している。（レポート）</p>	○	○	○	17
期	<p>単元「採卵鶏の飼育」</p> <p>【知識及び技能】 農業を畜産業の視点から理解するとともに、各産業動物にあった適切な飼育管理技術を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 飼育と環境に対する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 飼育と環境に対する情報や技術の収集について自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>	<p>【指導項目】</p> <p>①講義：初生びなについて 実習：初生びなの観察</p> <p>②講義：ニワトリについて 実習：幼びなの観察</p> <p>③講義：採卵鶏の一生 実習：幼びなの観察</p> <p>④講義：伝染病について 実習：中びなの観察</p> <p>⑤講義：ワクチンについて 実習：中びなの観察</p> <p>⑥講義：健康管理について 実習：中びなの観察</p> <p>⑦講義：ニワトリの体の構造について 実習：中びなの観察</p> <p>⑧講義：採卵鶏の栄養管理・消化の仕組みについて 実習：中びなの観察</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>①採卵鶏に適した飼育管理方法を行い、説明することができる。（観察・レポート）</p> <p>②実習場面において適切な道具・資材を選定し、使用することができる。道具・資材の扱い方を説明できる。（観察・レポート）</p> <p>③採卵鶏の生理生態を理解し、説明することができる。（単元テスト）</p> <p>④レポートに実習内容を分かりやすく記述している。（レポート）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①採卵鶏の飼育環境を理解し、適切な飼育環境にすることができている。（観察・レポート）</p> <p>②採卵鶏の生態や行動を理解し、体調不良等の健康観察ができています。（観察・レポート）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>①採卵鶏及びその飼育管理に関心を持ち、積極的に実習に参加している。（観察）</p> <p>②採卵鶏及びその飼育管理に関心を持ち、積極的に情報を集め、レポートに記述している。（レポート）</p>	○	○	○	30

3 学 期	<p>単元「動物の飼育管理」</p> <p>【知識及び技能】 様々な環境要因が動物に与える影響と各動物にあった飼育管理方法を理解するとともに、適切な飼育管理技術を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 動物飼育に対する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 動物飼育の情報や技術の収集について自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>	<p>【指導項目】</p> <p>⑦講義：動物に適する飼育器材 実習：動物の飼育管理（ワザ、モルモット）生物因子について（同種動物、異種動物）</p> <p>⑧講義：飼育器材の消毒 実習：動物の飼育管理（丸、爬虫類）</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>①各動物に適した飼育管理方法を行い、その内容を説明できる。（観察・レポート）</p> <p>②実習場面において適切な道具・資材を選定し、使用することができる。（観察・レポート）</p> <p>③動物の特性や習性について理解し、生物分類や動物種について説明できる。（単元テスト）</p> <p>④レポートに実習内容を分かりやすく記述している。（レポート）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①各動物の飼育環境を理解し、適切な飼育環境にすることができている。（観察・レポート）</p> <p>②各動物の生態や行動を理解し、体調不良等の健康観察ができている。（観察・レポート）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>①各動物及びその管理に関心をもち、積極的に実習に参加している。（観察）</p> <p>②各動物及びその管理に関心をもち、積極的に情報を集め、レポートに記述している。（レポート）</p>	○	○	○	10
	<p>単元「採卵鶏の飼育」</p> <p>【知識及び技能】 農業を畜産業の視点から理解するとともに、各産業動物にあった適切な飼育管理技術を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 飼育と環境に対する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 飼育と環境に対する情報や技術の収集について自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。</p>	<p>【指導項目】</p> <p>⑨講義：ニワトリの品種について 実習：大びなの観察</p> <p>⑩講義：ニワトリの体の構造・骨について 実習：大びなの観察</p> <p>⑪講義：品種による成長の違い 実習：大びなの観察</p> <p>⑫講義：卵のできる仕組み・構造について 実習：成鶏の観察</p> <p>⑬講義：畜産のまとめ</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>①採卵鶏に適した飼育管理方法を行い、説明することができる。（観察・レポート）</p> <p>②実習場面において適切な道具・資材を選定し、使用することができる。道具・資材の扱い方を説明できる。（観察・レポート）</p> <p>③採卵鶏の生理生態を理解し、説明することができる。（単元テスト）</p> <p>④レポートに実習内容を分かりやすく記述している。（レポート）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①採卵鶏の飼育環境を理解し、適切な飼育環境にすることができている。（観察・レポート）</p> <p>②採卵鶏の生態や行動を理解し、体調不良等の健康観察ができている。（観察・レポート）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>①採卵鶏及びその飼育管理に関心をもち、積極的に実習に参加している。（観察）</p> <p>②採卵鶏及びその飼育管理に関心をもち、積極的に情報を集め、レポートに記述している。（レポート）</p>	○	○	○	16
						合計	
						105	

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	2単位
科目	課題研究	2年A組	必修選択		
使用教科書 使用教材	問題集・自作プリント				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業態度 ③課題テスト ①～③を総合的に判断し評価するが、レポートの未提出が多いときは評価が1になることがある。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	職業資格の取得	農業に関する専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決能力や自発的、総合的な学習態度を育てる。	農業に関する専門的な知識を習得させる。 動物(家畜)に関する専門的な知識を習得させる。	2
	5	職業資格の取得	農業に関する専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決能力や自発的、総合的な学習態度を育てる。	農業に関する専門的な知識を習得させる。 動物(家畜)に関する専門的な知識を習得させる。	6
	6	職業資格の取得	農業に関する専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決能力や自発的、総合的な学習態度を育てる。	農業に関する専門的な知識を習得させる。 動物(家畜)に関する専門的な知識を習得させる。	6
	7	職業資格の取得	農業に関する専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決能力や自発的、総合的な学習態度を育てる。	農業に関する専門的な知識を習得させる。 動物(家畜)に関する専門的な知識を習得させる。	2
	8				
2 学期	9	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	テーマに沿った実施計画を立てさせる。実際に調査研究をさせる。	4
	10	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	計画的に調査研究を行うよう指導する。	6
	11	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	計画的に調査研究を行うよう指導する。	6
	12	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	最終報告に向けて、すべての調査研究についてまとめる。	2
3 学期	1	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	最終報告に向けて、すべての調査研究についてまとめ、発表させる。	4
	2	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	3年次における研究テーマの設定、および研究計画を立てさせる。	6
	3	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	3年次における研究テーマの設定、および研究計画を立てさせる。	2

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	2 単位
科目	動物解剖生理	2年A組(動物愛護類型)	必修選択		
使用教科書 使用教材	ビジュアルで学ぶ動物看護学 自作プリント				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②実習・授業態度 ③ノート ④考査 ①～④を総合的に判断し5段階評価とする。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	序論	動物の示す生命徴候について正しく理解させる。	バイタルサイン (体温、脈拍、心音、呼吸)	2
	5	序論	動物の生命がどのように維持されているかについて正しく理解させる。	ホメオスタシス (恒常性、生体防御) 細胞の働き (代謝とエネルギー、物質の移動)	6
	6	骨格系	骨の機能・構造等について理解させる。骨の代謝に必要なとされる栄養素や管理方法について。	骨 (骨格、骨の機能、骨組織、骨の形成)	6
	7	1学期のまとめ 定期考査	動物の生命の仕組み、骨格系について理解させる。	期末考査	1
	8				
2 学期	9	筋肉系	筋肉の機能・構造等について理解させる。筋肉の発達や運動に必要な飼育管理法について理解させる。	筋肉系 (筋肉の分類、骨格筋の構造、筋肉運動のエネルギー源)	6
	10	呼吸器系	呼吸器の構造・機能について理解させる。呼吸について動物飼育上、注意する点について理解させる。	呼吸器 (呼吸、呼吸運動、ガス交換)	8
	11	循環器系	循環器の構造・機能について理解させる。血液の構造・機能について理解させる。	循環器系 (心臓、血液循環、血液の機能、止血機構、血圧、リンパ系)	6
	12	2学期のまとめ 定期考査	筋肉系、呼吸器系、循環器系についての知識を習得し、動物の体の仕組みを理解させる。	期末考査	1
3 学期	1	内分泌系	内分泌(ホルモン)の種類や機能について理解させる。	内分泌系 (ホルモン分泌)	4
	2	神経系 感覚器系	神経系の構造・機能について理解させる。 感覚器の構造・機能について理解させる。	神経系 (神経細胞、末梢・中枢神経系) 体の感覚器	6
	3	1年間のまとめ 定期考査	動物の体の仕組みについて理解させ、実践的な動物飼育に役立てさせる。	学年末考査	1

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	2
科目	環境調査	2年A組	必修選択		単位
使用教科書 使用教材	樹木・草花などの図鑑 水生生物や鳥類の図鑑 自作プリント				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業・実習態度 ③定期考査 ④ノート、レポート ①～④を総合的に判断し評価する。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	生物の観察	各種調査・観察の留意点を理解させる。生物観察の知識と技術を習得させる。	植物の観察 昆虫の観察 野鳥の観察	2
	5	樹木調査 土壌調査	土壌調査の知識と技術を習得させる。樹木調査の知識と技術を習得させる。	樹木調査法 樹木の種類と特徴 土壌生物の観察	6
	6	水中の微生物 水質検査	水中の微生物の同定方法の知識と技術を習得させる。水質検査の方法や目的を理解させる。	水中生物の観察 地質調査	6
	7	まとめ		定期考査 レポートのまとめ	1
	8				
2 学期	9	生物の観察 花粉の観察	生物観察の知識と技術を習得させる。各種調査・観察の留意点を理解させる。	植物の観察 昆虫の観察 野鳥の観察 花粉の観察	4
	10	生物の観察 土中の小動物調査 種の散布	各種調査・観察の留意点を理解させる。生物観察の知識と技術を習得させる。	植物・昆虫野鳥・の観察 土中小動物の観察 種子の観察・標本制作	6
	11	木の実の実物標本づくり 動物による環境変化 生物の観察	木の実の構造と拡散方法についての知識を習得させる。動物による環境変化や相互作用についての知識を習得する。	種子の観察 種子の標本製作	6
	12	まとめ		定期考査 レポートのまとめ	1
3 学期	1	生物の観察	生物観察の知識と技術を習得させる。各種調査・観察の留意点を理解させる。	野鳥観察 昆虫観察	4
	2	生物と環境 野鳥の内容物調査 生き物プレゼンテーション	自然度を客観的に判断できる能力を習得させる。自然保護に対する知識を習得させる。	事例による学習	6
	3	まとめ		定期考査 レポートのまとめ	1

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	2
科目	生物活用	2年A組	必修選択		単位
使用教科書 使用教材	農文協「生物活用」 自作プリント				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業態度 ③ノート・レポート(期末) ④期末考査 ①～④を総合的に判断し評価する。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	栽培実習 動物の飼育管理実習	各作物にあった栽培方法を理解させる。 各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	ヘチマの栽培(播種) イヌ・ブタの飼育管理について	4
	5	栽培実習 動物の飼育管理実習 犬について	各作物にあった栽培方法を理解させる。 各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	ヘチマの栽培(圃場の準備と定植) ヨウム・文鳥の飼育管理、犬と人間との関わりについて。	6
	6	栽培実習 動物の飼育管理実習 動物園について	各作物にあった栽培方法を理解させる。 各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	コンテナ作り・ハーブの栽培 モルモットの飼育管理、動物園の役割について	8
	7	1学期のまとめ	各作物にあった栽培方法を理解させる。 各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	定期考査	1
	8				
2 学期	9	栽培実習 動物の飼育管理実習 サルについて	各作物にあった栽培方法を理解させる。 各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	ヘチマの栽培(誘引と整枝) ウサギの飼育管理、コモンマーモセットの生態について	6
	10	栽培実習 動物の飼育管理実習 サルについて	各作物にあった栽培方法を理解させる。 各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	ヘチマの栽培(収穫と圃場整備) チンチラの飼育管理について スローロリスの生態について	6
	11	植物の加工 動物の飼育管理実習	活用方法を理解させる。各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	ヘチマの加工(中抜き、乾燥) アヒルの飼育管理について	4
	12	2学期のまとめ	活用方法を理解させる。各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	定期考査	1
3 学期	1	植物の加工動物の飼育管理実習	活用方法を理解させる。各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	ヘチマの加工(塗装) マウス・ハムスターの飼育管理について	6
	2	植物の加工 動物の飼育管理実習	活用方法を理解させる。各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	押し花づくり モモンガ・爬虫類の飼育管理について	8
	3	3学期のまとめ	活用方法を理解させる。各動物にあった飼育の仕方を習得させる。	学年末考査	1

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	3
科目	総合実習	2年A組	必修選択		単位
使用教科書 使用教材	自作プリント等				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業態度 ③ノート・レポート(期末) ④期末考査 ①～④を総合的に判断し評価するが、ノート・レポートの未提出が多いときは評価が1になることがある。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	実験基礎 アクアリウム・テラリウム イヌのグルーミング	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	器具の名称・使用法 魚類について 犬の扱い方について	4
	5	実験基礎 アクアリウム・テラリウム イヌのグルーミング	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	器具の名称・使用法 水草について 犬のモチベーショントレーニング①	6
	6	実験基礎 アクアリウム・テラリウム イヌのグルーミング	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	溶液の調整 魚類飼育システム 犬のモチベーショントレーニング①	8
	7	1学期のまとめ	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	学期末考査(考査・実物鑑定)	1
	8				
2 学期	9	実験基礎 アクアリウム・テラリウム イヌのグルーミング	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	顕微鏡の使い方 水質検査 犬のクリックートレニング①	6
	10	実験基礎 アクアリウム・テラリウム イヌのグルーミング	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	顕微鏡の使い方 爬虫類について 犬のクリックートレニング①	6
	11	実験基礎 アクアリウム・テラリウム イヌのグルーミング	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	土壌生物の観察 爬虫類の環境 犬のグルーミングの必要性	4
	12	2学期のまとめ	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	学期末考査(考査・実物鑑定)	1
3 学期	1	実験基礎 アクアリウム・テラリウム イヌのグルーミング	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	溶液の性質・観察 爬虫類の飼育システム 犬のグルーミング実習①	6
	2	実験基礎 アクアリウム・テラリウム イヌのグルーミング	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	溶液の性質・観察 水槽の管理 犬のグルーミング実習②	8
	3	総合実習のまとめ	目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てる。 動物に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させる。	学年末考査(考査・実物鑑定)	1

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	2単位
科目	動物栄養飼料	2年A組	必修選択		
使用教科書 使用教材	ビジュアルで学ぶ動物看護学 自作プリント				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業態度 ③ノート・レポート(期末) ④期末考査 ①～④を総合的に判断し評価する。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	飼料作物の栽培について	飼料の重要性について理解させる。飼料作物の栽培方法について理解する。	農業器具の使用方法 飼料作物の栽培	4
	5	栄養学概論 食性	飼料の重要性について理解させる。食性と採食パターンの関係について理解させる。	タンパク質のはたらき 食性と採食パターン(歯)	4
	6	栄養学概論 消化器系	栄養素について理解させる。	炭水化物のはたらき 脂質のはたらき 哺乳類、鳥類(食道、胃、腸)	8
	7	1学期のまとめ		定期考査	1
	8				
2 学期	9	飼料作物の栽培について	農業機械(トラクタ)の構造について理解する。飼料作物の栽培方法について理解する。	トラクタの構造、操作方法 飼料作物の栽培	6
	10	栄養学概論	栄養素について理解させる。	ビタミン・ミネラルのはたらき	6
	11	ペットフード 動物の養分要求量	イヌのエネルギーや活動量に応じた一日当たりの給与量について理解させる。	ペットフードの品質・安全性保証、 エネルギー要求量の推定法	6
	12	2学期のまとめ		定期考査	1
3 学期	1	疾病と栄養のライフステージと栄養	若齢と老齢期、妊娠期、授乳期の栄養について、発育段階に応じた要求量の違いについて理解させる。	食物アレルギー、疾病と食事管理、若齢と老齢期、妊娠期、授乳期の栄養	6
	2	嗜好と嗜好性	動物の嗜好性について理解させる。	嗜好性に影響する要因(味、におい、歯ざわり、舌触りなど)	8
	3	3学期のまとめ		学年末考査	1

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	2単位
科目	動物環境	2年A組	必修選択		
使用教科書 使用教材	自作プリント				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業態度 ③ノート・レポート(期末) ④期末考査 ①～④を総合的に判断し評価する。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	地球と人	地球の歴史	人間の誕生による地球環境の変化。校内の生物とその環境についてのフィールドワーク。	4
	5	地球と人	人間と環境問題	人間の誕生による地球環境の変化 校内の生物とその環境についてのフィールドワーク	4
	6	生態系	生態系の構造と機能について	生態系の構造と機能について 校内の生物とその環境についてのフィールドワーク	8
	7	生態系Ⅰ学期のまとめ	日本の生態系の問題について	日本国内における生態系の遷移 現状の確認及び改善策 定期考査	1
	8				
2 学期	9	生態系	食物連鎖、ニッチ	環境的要素・生物的要素・食物連鎖・ニッチ・植物群落 校内の生物とその環境についてのフィールドワーク	6
	10	生態系	森林と土壌 環境適応の法則	植物による土壌環境の変化 環境変化に伴う生物の適応 校内の生物とその環境についてのフィールドワーク	6
	11	生態系	環境適応の法則 海洋の生態系	動物の環境適応の法則 森林海のつながり 海洋の生態系(海岸・珊瑚礁・干潟)	6
	12	生態系 2学期のまとめ	移入種 絶滅危惧動物	動物の分布変化と人為移動 自然環境下および人間による生物の絶滅移 定期考査	1
3 学期	1	人間活動と環境	環境汚染と生物	人間活動が及ぼす環境への影響 校内の生物とその環境についてのフィールドワーク	6
	2	人間活動と環境	環境汚染と生物	土壌、森林、河川、海洋汚染の現状 汚染防止に向けた取り組み	8
	3	人間活動と環境 3学期のまとめ	条約、法律	各種規則の内容 人間と動物の共存 定期考査	1

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	1
科目	動物管理と衛生	2年A組	必修選択		単位
使用教科書 使用教材	自作プリント				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業・実習態度 ③定期考査 ④技術点 ⑤課題提出 ①～⑤を総合的に判断し評価する。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	動物の飼養管理と衛生	感染と発症について理解させる	動物の衛生学についての定義 感染と発症の違いについて 飼育管理実習	1
	5	動物の飼養管理と衛生 動物由来感染症と伝播について	感染と発症について理解させる 動物由来感染症の定義について 理解を深めさせる	動物の衛生学についての定義 感染と発症の違いについて 飼育管理実習	3
	6	動物由来感染症と伝播について	感染源の種類について理解させる	動物由来感染症の伝播の様式について 動物由来感染症の病原体の種類について 飼育管理実習	5
	7	まとめ		期末考査	1
	8				
2 学期	9	ウイルスによる動物由来感染症	狂犬病や鳥インフルエンザなどの基本的な感染症の種類について理解させる	ウイルスによる動物由来感染症の種類・特徴・予防について 飼育管理実習	4
	10	ウイルスによる動物由来感染症	狂犬病や鳥インフルエンザなどの感染症の予防や治療について知識を深めさせる	ウイルスによる動物由来感染症の種類・特徴・予防について 飼育管理実習	3
	11	ウイルスによる動物由来感染症	狂犬病や鳥インフルエンザなどの感染症の予防や治療について知識を深めさせる	ウイルスによる動物由来感染症の種類・特徴・予防について 飼育管理実習	3
	12	まとめ		期末考査	1
3 学期	1	細菌・真菌による動物由来感染症	オウム病やサルモネラ菌など、身近な感染症について理解させる 治療や予防について知識を深めさせる	真菌・細菌による感染症の種類、特徴、対策について 飼育管理実習	2
	2	細菌・真菌による動物由来感染症	オウム病やサルモネラ菌など、身近な感染症について理解させる 治療や予防について知識を深めさせる	真菌・細菌による感染症の種類、特徴、対策について 飼育管理実習	3
	3	まとめ		学年末考査	1

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	3単位
科目	課題研究	3年A組	必修選択		
使用教科書 使用教材	自作プリント				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業態度 ③ノート・レポート(期末) ①～③を総合的に判断し評価するが、ノートの未提出が多いときは評価が1になることがある。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	テーマに沿った実施計画を立て、実際に調査研究を行う。	7
	5	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	テーマに沿った実施計画を立て、実際に調査研究を行う。	9
	6	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	中間報告に向け、実施内容の中間まとめと、pptの作成を行う。	12
	7	各自飼育動物等を用いて、自	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	中間報告を基に、夏季休業中の実施を念頭においた活動を行う。	3
	8				
2 学期	9	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	夏季休業中の実施内容のまとめと、調査研究の継続。	9
	10	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	園芸展に向けた、テーマのまとめを行う。	12
	11	各自飼育動物等を用いて、自らテーマを決め、調査研究を行う	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	最終報告に向けて、すべての調査研究についてまとめる。 冊子・pptの作成	12
	12	各自飼育動物等を用いて、自	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	最終報告に向けて、すべての調査研究についてまとめる。 冊子・pptの作成	3
3 学期	1	各自飼育動物等を用いて、自	各自で調査研究テーマをきめ、そのテーマに沿って計画立案・実施・まとめまでを行う力を養う。	最終報告に向けて、すべての調査研究についてまとめ、発表する。 pptの作成	13
	2				
	3				

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	3単位
科目	総合実習	3年A組	必修選択		
使用教科書 使用教材	ビジュアルで学ぶ動物看護学 自作プリント				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②実習・授業態度 ③ノート・レポート ④考査 ①～④を総合的に判断し評価するが、ノートやレポートの未提出が多いときは評価が1になることがある。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	化学実験(溶液の調製) 動物実験(血液の観察) トリミング(イヌの肢体について)	身近な動物を用いた実験実習を通して、科学的な視点を身に付けさせる。	化学実験の基本となる溶液の調製方法、ネズミを用いた血液検査、イヌの肢体について学ぶ。	4
	5	化学実験(溶液の調製) 動物実験(血液の観察) トリミング(イヌの肢体について)	身近な動物を用いた実験実習を通して、科学的な視点を身に付けさせる。	化学実験の基本となる溶液の調製方法、ネズミを用いた血液検査、イヌの肢体について学ぶ。	9
	6	化学実験(中和滴定) 動物実験(ニワトリの解剖) トリミング(トリミング方法)	身近な動物を用いた実験実習を通して、科学的な視点を身に付けさせる。	中和滴定を用いて正確に溶液が調製されているかを調べる。ニワトリの解剖を行い、鳥類の臓器を観察する。	15
	7	1学期まとめ		期末考査	1
	8				
2 学期	9	化学実験(食酢の酸度調べ) 動物実験(精液の性状検査) トリミング(トリミング実践)	身近な動物を用いた実験実習を通して、科学的な視点を身に付けさせる。	身近な材料の酸性度を求める方法を知る。雄犬の精液採取を行い性状を調べる。トリミング方法を学ぶ。	12
	10	化学実験(消化酵素) 動物実験(スメア検査) トリミング(トリミング実践)	身近な動物を用いた実験実習を通して、科学的な視点を身に付けさせる。	ペプシンを用いて消化酵素の働きを知り体内活動について理解する。ネズミを用いて発情周期を調べる。	9
	11	化学実験(DNAの抽出) 動物実験(糞便検査) トリミング(トリミング実践)	身近な動物を用いた実験実習を通して、科学的な視点を身に付けさせる。	野菜を用いたDNAの抽出方法を知る。動物の糞便から虫卵等の有無を調べる。トリミング方法を学ぶ。	9
	12	化学実験(DNAの抽出)動物実験(糞便検査)	身近な動物を用いた実験実習を通して、科学的な視点を身に付けさせる。	野菜を用いたDNAの抽出方法を知る。動物の糞便から虫卵等の有無を調べる。トリミング方法を学ぶ。	1
3 学期	1				3
	2	3学期まとめ		学年末考査	4
	3				

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	2
科目	水循環	3A	必修選択		単位
使用教科書 使用教材	電機大「水循環」				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業態度 ③ノート ④定期考査 ①～④を総合的に判断し評価する。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	水と地球環境	水と環境の相互関係について理解させる。	水と大気	4
	5	水と地球環境	地球の水の循環について理解させる。	水循環 水と森林・河川・農地 ビオトープ維持管理	6
	6	水と人間	水と人間生活との相互関係について理解させる。	水と人間の歴史 資源としての水 ビオトープ維持管理	8
	7	1学期のまとめ	水に関する環境についての理解と復習ができています。	定期考査 ビオトープ観察及び調査	2
	8				
2 学期	9	水の基本的性質	水の性質を理解させ、地球規模にたった新しい考え方を取り入れさせる。	水の化学組成と基本的性質 世界の河川、湖沼 ビオトープ維持管理	8
	10	水と農林業	水の動きに伴う肥料や農薬の動きと環境との関わりについて理解させる。	水と農地の土壌 水と森林の土壌 ビオトープ維持管理	6
	11	農業水利	水資源の涵養機能及びこれに関わる環境保全への寄与についても理解させる。	水利施設 ビオトープ観察及び調査	4
	12	2学期のまとめ	水と環境・利用について理解と復習ができています。	定期考査	2
3 学期	1	水と生活環境 3学期のまとめ	水質検査やポスターセッションを実施し、生態系や環境保全へ配慮した水利用を理解させる。	水の有効利用と水質保全 水と生態系 ビオトープ観察及び調査	4
	2			学年末考査	
	3				

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	1単位
科目	園芸タイム	3年A組	必修選択		
使用教科書 使用教材	教科書なし 飼育動物 校内環境				
評価の 観点・方法	<評価の観点> ①授業・実習態度 ②農作業技術の習得 ③レポート		<評価の方法> 5段階評価		

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	圃場整備 動物の飼育管理	圃場整備(A棟)ができる。 動物管理(イヌ・ブタ)ができる。	圃場整備(除草等) 動物の管理(イヌ・ブタ)	2
	5	圃場整備 動物の飼育管理	圃場整備(A棟)ができる。 動物管理(フェレット・モモンガ)ができる。	圃場整備(除草等) 動物の管理(フェレット・モモンガ)	3
	6	圃場整備 動物の飼育管理	圃場整備(造園圃場)ができる。 動物管理(モルモット)ができる。	圃場整備(除草等) 動物の管理(モルモット)	3
	7	圃場整備 動物の飼育管理	圃場整備(造園圃場)ができる。 動物管理(ハムスター)ができる。	圃場整備(除草等) 動物の管理(ハムスター)	1
	8				
2 学期	9	圃場整備 動物の飼育管理	圃場整備(造園圃場)ができる。 動物管理(爬虫類)ができる。	圃場整備(除草等) 動物の管理(爬虫類)	2
	10	圃場整備 動物の飼育管理	圃場整備(造園圃場)ができる。 動物管理(ニワトリ・ウコッケイ)ができる。	圃場整備(除草等) 動物の管理(ニワトリ・ウコッケイ)	3
	11	圃場整備 動物の飼育管理	圃場整備(造園圃場)ができる。 動物管理(チンチラ)ができる。	圃場整備(除草等) 動物の管理(チンチラ)	6
	12	圃場整備 動物の飼育管理	圃場整備(A棟)ができる。 動物管理(チャボ)ができる。	圃場整備(落ち葉清掃等) 動物の管理(チャボ)	1
3 学期	1	圃場整備 動物の飼育管理	圃場整備(畑)ができる。 動物管理(ヨウム・ブンチョウ)ができる。	圃場整備(土作り) 動物の管理(ヨウム・ブンチョウ)	2
	2				
	3				

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	3単位
科目	環境と昆虫	3年A組(動物環境類型)	必修選択		
使用教科書 使用教材	自作プリント 校内環境				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業態度 ③ノート ④定期考査 ①～④を総合的に判断し評価する。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	校内の昆虫について 環境問題について	校内の昆虫について各自調査目標を定め、計画的に実施する力を養う。動物を取り巻く環境についての知識を身につけさせる。	外部講師を中心に各自テーマを決め、実施計画を立てる。 身近な環境問題について、実例を基に学ぶ。 昆虫採集。	5
	5	校内の昆虫について 環境問題について	校内の昆虫について各自調査目標を定め、計画的に実施する力を養う。動物を取り巻く環境についての知識を身につけさせる。	外部講師を中心に各自テーマを決め、実施計画を立てる。 身近な環境問題について、実例を基に学ぶ。 昆虫採集。	9
	6	校内の昆虫について 環境問題について	校内の昆虫について各自調査目標を定め、計画的に実施する力を養う。動物を取り巻く環境についての知識を身につけさせる。	外部講師を中心に各自テーマを決め、実施計画を立てる。 身近な環境問題について、実例を基に学ぶ。 昆虫採集、調査観察。	11
	7	校内の昆虫について 環境問題について 期末考査	校内の昆虫について各自調査目標を定め、計画的に実施する力を養う。動物を取り巻く環境についての知識を身につけさせる。	外部講師を中心に各自テーマを決め、実施計画を立てる。 身近な環境問題について、実例を基に学ぶ。 期末考査	2
	8				
2 学期	9	校内の昆虫について 環境問題について	校内の昆虫について各自調査目標を定め、計画的に実施する力を養う。動物を取り巻く環境についての知識を身につけさせる。	外部講師を中心に各自のテーマに合わせて調査を実施する。 身近な環境問題について、実例を基に学ぶ。 昆虫採取、標本作成。	9
	10	校内の昆虫について 環境問題について	校内の昆虫について各自調査目標を定め、計画的に実施する力を養う。動物を取り巻く環境についての知識を身につけさせる。	外部講師を中心に各自のテーマに合わせて調査を実施する。 身近な環境問題について、実例を基に学ぶ。 標本作成、研究のまとめ。	11
	11	校内の昆虫について 環境問題について	校内の昆虫について各自調査目標を定め、計画的に実施する力を養う。動物を取り巻く環境についての知識を身につけさせる。	外部講師を中心に各自のテーマに合わせて調査を実施する。 身近な環境問題について、実例を基に学ぶ。	11
	12	校内の昆虫について 環境問題について 期末考査	校内の昆虫について各自調査目標を定め、計画的に実施する力を養う。動物を取り巻く環境についての知識を身につけさせる。	外部講師を中心に各自のテーマに合わせて調査を実施する。 身近な環境問題について、実例を基に学ぶ。 期末考査。	2
3 学期	1	校内の昆虫について 環境問題について	校内の昆虫について各自調査目標を定め、計画的に実施する力を養う。動物を取り巻く環境についての知識を身につけさせる。	外部講師を中心に各自のテーマに合わせて調査を実施する。 身近な環境問題について、実例を基に学ぶ。	9
	2	学年末定期考査	まとめ	学年末考査	2
	3				

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	2 単位
科目	人と動物の関係学	3年A組(動物愛護類型)	必修選択		
使用教科書 使用教材	自作プリント				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②実習・授業態度 ③レポート ④考査 ①～④を総合的に判断し5段階評価とする。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	アニマルセラピーについて 犬の訓練	アニマルセラピーの歴史について理解させる。	アニマルセラピーの効果と歴史について 犬の行動と性質について	4
	5	動物介在療法について 犬の訓練	動物介在療法の現状を理解させる。家庭犬の訓練方法を習得させる。	セラピードッグと動物介在療法の症例、 高齢者の健康維持に関わる動物の効果 犬の訓練方法	6
	6	動物介在療法について 犬の訓練	人と動物の関わり方について理解させる。家庭犬の訓練方法を習得させる。	人と犬の命のきずな 犬の訓練方法について	8
	7	1学期のまとめ 定期考査	動物介在療法や家庭犬の訓練方法について理解させる。	期末考査	1
	8				
2 学期	9	動物介在教育について 犬の訓練	動物介在教育活動の実施計画を立てさせ、地域の小学生に対して実践し、結果を考察させる。	動物が子どもの成長に与える影響 子どもの心を育む動物介在教育 動物介在教育活動の実施計画	6
	10	動物介在教育について 犬の訓練	動物介在教育活動の実施計画を立てさせ、地域の小学生に対して実践し、結果を考察させる。	動物介在教育の実践 動物行動学について	8
	11	動物介在教育について 犬の訓練	人間と動物の共存について理解を深め、実践できる技術を身に付けさせる。	セラピードッグと人間の共存 犬の訓練方法について	8
	12	2学期のまとめ 定期考査	動物介在教育活動の意義と役割を理解させる。	期末考査	1
3 学期	1	犬の殺処分の現状 家庭犬の訓練	人間と犬をはじめとする動物たちの快適な生活について考えさせる。	人と犬たちの生活について 犬の訓練方法について	6
	2	1年間のまとめ 定期考査	人と動物はどのように関わっていくことがお互いの生活の質を向上させるのか、理解させる。	学年末考査	1
	3				

令和4年度(2022年度) 年間指導計画

教科	農業	対象クラス	○ 必修	単位数	3単位
科目	動物バイオテクノロジー	3年A組(動物愛護類型)	必修選択		
使用教科書 使用教材	教科書(動物バイオテクノロジー)				
評価の 観点・方法	①出席状況 ②授業態度 ③ノート ④定期考査 ①～④を総合的に判断し評価する。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	動物に関する法令	動物に関する法令について理解させ、正しい解釈をさせる。	動物の愛護及び管理に関する法律	3
	5	バイオテクノロジーの意義と役割	動物バイオテクノロジーの意義と役割について理解させる。	動物バイオテクノロジーの意義 産業動物とバイオテクノロジー	9
	6	実験動物に関する法令	実験動物の役割と正しい取り扱いについて理解させる。	実験動物の飼養及び保管に関する基準	11
	7	1学期のまとめ	動物に関する法令や、バイオテクノロジーの役割について理解させる。	期末考査	2
	8				
2 学期	9	動物の疾病に関する法令	動物の感染症や予防法を理解させる。	家畜伝染病予防法 人獣共通感染症	11
	10	動物バイオテクノロジーの技術①	動物バイオテクノロジーの技術について理解させる。	実験動物の取り扱い	9
	11	動物バイオテクノロジーの技術②	動物バイオテクノロジーの技術の進歩と倫理的な課題について理解させる。	受精卵操作 核移植とクローニング 体外受精技術	8
	12	2学期のまとめ	実践的な技術と倫理的な課題について理解させる。	期末考査	2
3 学期	1	動物バイオテクノロジーの展望と可能性	技術的にどのような可能性があるか、どのように社会貢献していけるのかを理解させる。	iPS細胞 優良個体の生育 ヒトの不妊治療への応用	6
	2	1年間のまとめ	動物バイオテクノロジーの可能性や課題を理解させ、自分なりの意見を持たせる。	学年末考査	2
	3				